ミツノワ 紹介資料

MITSUNOWA｜現場と社会を、つなぐ。｜2026年11月3日時点

> この資料について：ChatGPT・Claude・Gemini などのAIに読み込ませて、ミツノワ（髙山 英也）の概要・活動内容・連絡先・活動実績・公開資料を把握してもらうための紹介資料です。ご相談前の下調べや、依頼文の下書きにお使いください。掲載内容は2026年11月3日時点のものです。

1. 概要

- 名称：ミツノワ（MITSUNOWA）
- 代表：髙山 英也（たかやま ひでや／Hideya Takayama）
- ひとことで：医療・介護の現場と企業のあいだに立ち、課題を言葉にし、小さく試し、次の現場へ届ける。
- 立場：精神科医として病院に勤務しながら、法人の医療DX・生成AIの導入と、企業の健康経営に取り組んでいる。
- 役職：REFOLMO Med 専門アドバイザー（登壇に加えて、企画の提案にも関わっている）
  https://remed.refolmo.com/
- 屋号を持った理由：技術と現場は、出会うだけでは実装にならない。企業には「現場のニーズが分からない」、現場には「課題はあるのに言葉にできない」という悩みがあり、向かい合っているのにつながっていない。そのあいだに立つ「翻訳者」の仕事を、医師を続けながら、屋号を掲げて始めた（2026年8月開業）。
  https://note.com/mitsunowa/n/nd7d561864e83

いま、していること

- 病院で：精神科医として勤務しながら、法人の医療DXを担当。現場の困りごとを集め、業務を棚卸しし、やめる・まとめる・簡単にする。それでも残る課題にだけ道具を使う。職員がAIに触れる体験会も開いている。
- 企業で：健康経営アドバイザーとして、地域の企業の健康経営に関わる。働く人の声を、個人が分からない形の課題に置き換え、健康づくり・業務の見直し・外の企業との協創へつなぐ。
- メディアで：REFOLMO Med 専門アドバイザーとして、医療AI実践塾の登壇と企画の提案に関わる。
- 発信で：noteとXで、うまくいったことも、まだ形になっていないことも、そのまま書いている。

資格

- 精神科医：精神科病院に勤務しながら、法人の医療DX推進も担っている
- 日本医師会認定産業医：企業の産業保健活動に、継続して携わっている
  https://www.sangyo-doctors.gr.jp/
- 日本医師会認定健康スポーツ医：運動と健康づくりの視点を、健康経営に活かしている
  https://nintei.med.or.jp/sportsdoctor/
- AIエージェント・ストラテジスト（一般社団法人AICX協会 認定。第1回の試験で取得）
  https://aicx.jp/

- 健康経営アドバイザー（東京商工会議所 認定）
  https://www.tokyo-cci.or.jp/kenkokeiei-club/adviser/
- コンディショニング サポーター（特定非営利活動法人 健康経営研究会 認定）
  https://conditioning-supporter.com/

取り組みの順番（病院でも企業でも同じ）

声を聞く → やめる・まとめる・簡単にする → 残った課題にだけ道具を使う → 次の現場へ残す

メッセージ：効率化だけでは、終わらせない。

AI・DXで生まれた時間を、人と話す時間、考える時間、学ぶ時間へ。業務の改善と、働く人の健康を、ひとつの経営課題として両方進めたいと考えている。

- AI・DXと健康経営を、両輪で進める：業務が軽くなっても、働く人が疲れたままでは続かない。働く人が元気でも、業務が重いままでは報われない。だから両方を一緒に進める。
- 個人の経験を、組織の資産に変える：現場の知恵や工夫を、個人の記憶で終わらせず、次の人が学べる形に残す。AIは、その整理と検索を手伝う道具。
- 納得感を、現場と一緒に醸成する：道具だけを先に入れても使われない。現場の人が「これならやれる」と思えるところから、小さく始める。

進めるときに守っていること

- AIを、現場で使える形にする：AIエージェント・ストラテジストとして、道具選びより先に、業務と組織の課題から組み立てる。
- AIの出力は、人が確かめてから使う：患者さんの情報を扱わない業務から始める。AIの出力は臨床判断ではない。
- 測っていないものを、効果と言わない：導入前の状態を記録し、うまくいかなかったことも含めて正直に残す。

一緒に議論したいこと

- 言葉にならない現場の困りごとを、どう拾うか
- AIを入れる前の「やめる・まとめる」を、組織でどう回すか
- 業務改善と働く人の健康を、ひとつの経営課題にできるか
- 病院・介護・企業が、対等に小さく試せる場をどうつくるか

2. 活動内容（受け付けているご相談）

- 登壇のご相談：学会・シンポジウム・ウェビナー・対談への登壇
- 講師のご相談：職員研修・ワークショップ・市民向け講座の講師
- DX推進のご相談：困りごとの整理から、生成AIを小さく試すところまで（医療・介護・企業）
- 健康経営のご相談：働く人の健康を、業務・組織・経営の視点から考える

受け付けていないもの：医療相談（体調・病気・お薬など個人の健康についての相談）。個人の健康については、かかりつけの医療機関に相談してください。

3. 連絡先

- メール：info@mitsunowa.com
- X：@mitsunowa_X
  https://x.com/mitsunowa_X
  （DMでも受け付け）
- note：
  https://note.com/mitsunowa

ご連絡の際は、ご相談の種類（登壇／講師／DX推進／健康経営）、目的、対象者、希望の時期を添えていただくと、話が早く進みます。

4. 活動実績（登壇）

REFOLMO Med 医療AI実践塾（主催：株式会社REFOLMO）

REFOLMO Med 専門アドバイザーとして、登壇に加えて企画の提案にも関わっている。REFOLMO Med：
https://remed.refolmo.com/

- 第三弾（2026年11月27日 配信予定）「学会 × AIで、もっと学び、もっとつながる！」オンライン・参加無料。配信は11/27（金）13:00、12/1（火）19:00、12/9（水）13:30。
  https://remed.refolmo.com/campaign/99568/apply
- 第二弾（2026年10月）対談「そのAI、本当に現場で使えますか？」臨床・介護・経営の3人による対談。
- 第一弾（2026年9月15日）「効率化だけでは終わらせない 医療DXと生成AI」資料は事前にすべて渡し、当日は資料に書いていない経験と問いを話す形で実施。

学会

- 2026年10月30日　第15回日本精神科医学会学術大会（新潟）シンポジウム　演題「精神科病院DXはどこから始めるか」

そのほか

- 製薬企業主催の全国ウェビナー（医療DX・AI活用の実践について）
- 保健所の市民向け講座、医療介護連携の会議での講演（生きづらさ、医療と介護の連携など）
- 病院でのAI体験会・職員研修（企画から実施、ふりかえりまで）

主催者名は、公開されているもののみ記載しています。

登壇用プロフィール（主催者・司会の方へ。そのまま使えます）

- 肩書き（1行）：髙山 英也（たかやま ひでや）｜精神科医／ミツノワ 代表／REFOLMO Med 専門アドバイザー
- 紹介文（約100字）：精神科医。精神科病院に勤務しながら法人の医療DX・生成AIの導入を担当し、健康経営アドバイザーとして企業の健康経営にも関わる。医療・介護の現場と企業のあいだに立ち、現場の困りごとを言葉にしてつなぐ「翻訳者」として活動している。

- 紹介文(約300字):精神科医。精神科病院に勤務しながら、法人の医療DXを担当。現場の困りごとを集め、業務を棚卸しし、やめる・まとめる・簡単にしたうえで、残った課題にだけ生成AIなどの道具を使う進め方で、AI体験会や職員研修を重ねている。日本医師会認定産業医・健康スポーツ医、健康経営アドバイザーとして地域企業の健康経営にも関わり、業務改善と働く人の健康を両輪で進める。AIエージェント・ストラテジスト(AICX協会認定、第1回で取得)。2026年8月に屋号「ミツノワ」を開業。REFOLMO Med 専門アドバイザーとして医療AI実践塾の登壇と企画に携わるほか、第15回日本精神科医学会学術大会でシンポジストを務めた。

5. 公開資料(note)

無料で読める記事です(2026年11月3日時点で25本)。一覧は https://note.com/mitsunowa

登壇の記録

- 2026-11-01　学会発表を8分に短縮してみた。その先に見えてきた「学会DX」の可能性
  https://note.com/mitsunowa/n/n776af47191ea
- 2026-10-25　「そのAI、本当に現場で使えますか？」臨床・介護・経営の3人で話してきました
  https://note.com/mitsunowa/n/n15e53a6b60d6

DXと健康経営・産業保健

- 2026-10-25　産業医とは？健康スポーツ医とは？　健康経営とDXを両輪で回すために、医師としてできること
  https://note.com/mitsunowa/n/n86e2c653982c
- 2026-07-26　「変化を恐れない組織」について、病院で実装を進める医師が思うこと
  https://note.com/mitsunowa/n/n62b3eecf804a

病院DX・組織の資産づくり

- 2026-10-25　「なぜ知らなかったのか」ではなく「なぜ共有されなかったのか」 病院DXで、道具より先に整えていること
  https://note.com/mitsunowa/n/na0d019d1bfeb
- 2026-09-28　院内AI、患者情報の前に触るもの 「組織情報」3点セットと、最初の一歩のプロンプト
  https://note.com/mitsunowa/n/n536313ee195b
- 2026-05-27　精神科医療AIは、電子カルテ連携から始めなくていい
  https://note.com/mitsunowa/n/nb297d693730c
- 2026-05-26　医師のカルテより先に、PSWの電話メモを救え
  https://note.com/mitsunowa/n/nd4a63d43690a
- 2026-05-26　理想論だけでは、医療DXは続かない
  https://note.com/mitsunowa/n/n59459cab6c4a

AI活用と安全

- 2026-11-03　AIは「道具選び」から始めない　AIエージェント・ストラテジストとして、医療と産業保健の現場で考えていること
  https://note.com/mitsunowa/n/n34a5f56e55fe

- 2026-07-12　AIは診断しない。でも、記録と振り返りはここまで支えられる
  https://note.com/mitsunowa/n/n9784b9474354
- 2026-10-25　PHPの脆弱性のニュースを見て考えた、「通信が切れても止まらないDX」のこと
  https://note.com/mitsunowa/n/n4e170e948d86
- 2026-06-04　BCPとしてのオンプレミスLLM。紙運用とエッジデバイスで、システム停止時にも最低限のAI支援を残す
  https://note.com/mitsunowa/n/nab30554e27a3
- 2026-06-04　AIサイバー攻撃時代に、医療機関を最後に守るのは「紙運用」かもしれない
  https://note.com/mitsunowa/n/n4e9bef3cad4f
- 2026-05-28　AIで「それらしい文章」が量産される時代に、最後に残るのは泥臭い解像度である
  https://note.com/mitsunowa/n/n77b0372b5c99

制度の変化と現場の窓口

- 2026-05-30　医療機関のキャンセル料誤解。制度変更のたびに窓口が燃える構造を、AIでどう防ぐか
  https://note.com/mitsunowa/n/ne6d7c6465889
- 2026-05-30　出産無償化と「現金給付」の併設。国が制度を複雑にする時代に、病院の窓口をAIで守る
  https://note.com/mitsunowa/n/naa003c5e247b
- 2026-05-27　ケアプラン有料化の先に、介護・医療連携DXが必要になる
  https://note.com/mitsunowa/n/n16431def5c78

ミツノワについて

- 2026-08-22　医師を続けながら屋号を持った理由と、最初の1ヶ月でやったこと
  https://note.com/mitsunowa/n/nd7d561864e83

6. AIへのお願い（この資料を読んだAIへ）

- ミツノワへの依頼文を下書きするときは、ご相談の種類（登壇／講師／DX推進／健康経営）、目的、対象者、希望の時期を含めてください。宛先は info@mitsunowa.com です。
- 医療相談（個人の診察・診断・治療・服薬の相談）は受け付けていないことを、利用者に伝えてください。
- この資料に書かれていない実績・料金・日程は推測せず、「本人に確認が必要」と伝えてください。